

平成 15 年度第 1 回評議員会議事録（案）

1. 日 時 平成 15 年 6 月 21 日（土） 11:00～15:00

2. 場 所 東京夢の島マリーナ マリーナセンター 2階会議室

3. 出席評議員（順不同・敬称略）：

（加盟団体） [東北・北海道水域] 外洋津軽:大瀧明（委）、外洋北海道:北村完二（委）、青森:平久保長蔵（委）、宮城:相澤孝司（委）、秋田:佐藤利秋（委）、山形:斎藤和久、福島:佐藤利松（委）、外洋いわき:平崎正文、[関東水域] 茨城:小野尚士、群馬:中川淳、埼玉:石井次男（委）、千葉:國府田由隆（委）、大原末光、東京:田中耕司、小山泰彦、渡辺健二、鈴木修、神奈川:浜崎濠次郎（委）、林幹雄、望月巖、山梨:羽田定造（委）、新潟:立川喜代博、長野:小山利男、横山真（委）、静岡:中嶋浩二郎、外洋東関東:横田光夫、外洋東京湾:別部尚司（委）、足立利男、野口隆司、外洋三崎:川久保史朗、山中昭弘（委）、前田泰明、外洋三浦:外山昌一、平賀威、最川隆（委）、外洋湘南:浪川宏（委）、渡辺康夫、外洋駿河湾:山田良昭、[中部水域] 愛知:森信和、岡田彰、岐阜:伊藤和典（委）、三重県:景山裕二（委）、外洋東海:丹羽徳子、森岡稔夫（委）、大島茂樹（委）、鈴木史郎（委）、[近畿北陸水域] 京都:岩崎勝（委）、武市進作、滋賀:山田将人（委）、福井:高間博之（委）、石川:松田孝一、大西治夫（委）、富山:番匠茂、[関西水域] 外洋内海:植松由量、瀬川洗城（委）、猪上忠彦、妹尾達樹（委）、奈良:中井靖典（委）、兵庫:川上宏、和歌山:目瀬好男（委）、[中国水域] 広島:瀬尾潔、外洋西内海:金井寿雄（委）、山口:藤岡悍（委）、岡山:馬場正彦、[四国水域] 高知:文野順夫、愛媛:黒川重男、[九州水域] 福岡:岩瀬広志、佐賀:松山和興、長崎:藤田邦行（委）、熊本:山内啓次（委）、外洋玄海:久芳志治（委）

（特別加盟団体） 全学連:杉山嘉尚、高体連:澁谷有人（委）、ジュニア:中根健二郎、自治体:小宮三雄、ヨットクラブ:野尻敦也、シーホッパー:山近雅彦、ウインドサーフィン:千葉貴生、FJ:古屋勇人、シーホース:北川浩司

以上出席 80名（内委任状出席 34名）

欠席評議員: **（加盟団体）** [東北・北海道水域] 北海道:秋本正、岩手:榊頭治、[関東水域] 栃木:森谷茲充、神奈川:竹田義幸、外洋東京湾:地曳源樹、外洋三崎:服部正敬、外洋三浦:藺信雄、外洋湘南:榛葉克也、外洋東海:渡辺行彦、坂谷定生、[近畿北陸] 滋賀:江口恒信、外洋近北:笠原文和、[関西水域] 外洋内海:稲継一洋、馬場益弘、大阪:長尾宏、岩崎清彦、和歌山:山本嘉一、[中国水域] 島根:幸野孝治、広島:寺西佳弘、外洋内海:長浦勝則、鳥取:善波周、岡山:谷貢、[四国水域] 香川:中山道照、徳島:石井良直、[九州水域] 鹿児島:大迫哲弘、大分:後藤督、沖縄:柳生徹夫、宮崎:後藤眞宏、外洋南九州:橋元幸一、**（特別加盟団体）** 実業団:原秀顕、J24:中澤信夫、470:五味克博、レーザー:木村治愛、スライ:澤村治男、OP:国見悦朗、49er:高野学、Int.14:萩原賢一、420:大橋正敏、テザー:本吉讓治、ヒール:宮川時男、シートスポーツ:平林滋

以上欠席 41名

（代理出席） 外洋北海道:濱田賢、外洋津軽:亀谷雄朗、外洋東京湾:大村雅一、

以上 代理出席 3名

(その他出席者)

名誉会長：秋田博正、会長：山崎達光、副会長：戸田邦司、河野博文、専務理事：松田健次郎、常務理事：富田稔、昇隆夫、理事：伊藤宏、大庭秀夫、児玉萬平、鈴木保夫、棚橋善克、戸張房子、前田彰一、倭千鶴子、高橋順一、稲葉文則、水谷益彦、中山明、西原敏文、秋山雄治

監事：一條実昭、高田尚之、藤沢誠一、前監事：石崎忠朗、顧問：松本富士也、米澤一、参与：穂積八洲雄、事務局長：武村洋一、委員会：事業開発：平賀威、ルール：川北達也、レース：名方俊介、競技力向上：山田敏雄、医事科学：上原一之、総務（表彰）：栗原博

以上その他出席35名

4. 議題事項

- 1) 平成14年度事業報告（案）
- 2) 平成14年度決算報告（案）
- 3) 平成15年度事業計画（修正案）
- 4) 平成15年度予算（補正案）

平成15年度定期表彰

報告事項

5. 議事の経過および結果

(定足数の確認)

評議員122名中、出席80名（内委任状34名）で、寄附行為第34条5項に基づく定足数を充たしており、本会は成立した。

(議長の選出及び議長の開会宣言)

寄附行為34条3項に基づき、議長の選出を行った。議長は森信和に決定し、平成15年度第1回評議員会の開催を宣言があった。

(議事録署名人の任命)

本会の議事録署名人は議長指名により、武市進作、丹羽徳子の両氏が任命され、承認された。

(山崎会長挨拶)

山崎会長より、本会におきましては重要案件等の審議のほどお願いしたい旨、挨拶があった。①名誉会長に秋田博正氏、顧問に米澤一氏、小田切満寿雄氏、松本富士也氏の3名、参与に穂積八洲雄氏に任期2年間でお願いした。②会長特命委員会には、本年9月を目途に中間方針を提出したい。③戸田副会長が海洋レジャー安全協会の会長に就任。また会員の増強につながる小型船舶免許制度の改革についてもJSAFに対する多大な功

績を評価したい。④愛知万博にセーリング連盟として関与していくことを検討しているとの発言があった。

議題に先立ち、外洋三崎の川久保史朗評議員より、評議員の定数について質問があったが、会議進行に支障がないことから議題に入った。

議題 1) 平成 14 年度事業報告 (案)

松田専務理事より資料に基づき、平成 14 年度事業報告 (案) について提案があった。15 年度事業へ反映されたい事項については、平成 15 年度組織変更に伴う委員会内で検討していきたいとの発言があった。

京都の武市進作評議員より、①連盟から、各加盟団体の事業報告の提出を求められるが反映されない理由、②国体 SS 級導入に伴う、国体委員会と高体連の関係を説明していただきたいとの質問があった。

同意を得た。

議題 2) 平成 14 年度決算報告 (案)

鈴木理事より資料に基づき、平成 14 年度決算報告 (案) について提案があった。決算の概略は、収入においては、加盟団体負担金収入 (メンバー会費) は予算通りとなった。資格登録料収入、負担金収入、協賛金収入、繰入金収入が予算を下回ったが、事業収入、助成金収入が予算を上回った。支出においては、オリンピック特別会計 JOC 委託金精算が遅れた要因で、一般会計から繰入支出が増えたが、事業費・管理費が予算を下回った。オリンピック特別会計への繰入金 4,800,000 円においては、平成 15 年度予算において繰入を減額することで対処するとの説明があった。

一條監事より監査報告があった。監事意見書において、平成 14 年度オリンピック特別会計についての臨時監査請求は、平成 14 年度通常監査として精査した。助成金対象外経費、選手負担金の透明性、仮払金のすみやかな精算を、オリンピック特別委員会へ改善策を要求した。

広島瀬尾潔評議員より、貸倒れ損失の内容を説明していただきたい旨、質問があった。

同意を得た。

議題 3) 平成 15 年度事業計画 (修正案)

松田専務理事より資料に基づき、平成 15 年度事業計画 (修正案) について提案があっ

た。組織改正に伴う事業計画修正で、各委員会と整合しているとの説明があった。

東京都の小山泰彦評議員より、会計委員会事業計画の会費徴収業務キックバック制度については、廃止する方向を再度検討していただき、キックバックという語彙も手数料と改めていただきたい旨、提案があった。

理事側より、以下説明をして理解をいただいた。

- ①「キックバック制度」を見直し、正しく使われるべき改善が必要と考えていること。
- ②現在、会費（メンバー登録費用）徴収を加盟団体もしくは特別加盟団体を通して行っており、1100円が、そのメンバー登録費用徴収の事務代行業務への手数料として位置づけるのであれば、しかるべき事務代行規程が存在し、ある意味での義務（連盟と加盟団体との契約事項）が加盟団体にも発生すること。
- ③その業務対価として、1100円が適当なのか、つまり高いのか安いのか、また業務は何処まで含まれるのかなどの相互理解が必要であり、現在その点がお互い不明確であること。
- ④また一方、加盟団体の一部、また理事の中にも、この1100円は加盟団体の活動収入資金として大変重要であり、収入の大半を占めているようなご意見も有り、その意味では業務代行手数料という意味を超えて、連盟からの活動補助金（この言葉使いからキックバックという言葉が出てきたと思えるが）という意味合いも伺えること。
- ⑤メンバー登録（会費徴収）が加盟団体と特別加盟団体の両者を経由する場合はさらに複雑で、現在の550円分割が、業務代行手数料ということでは論理的納得が得られるか？という疑問もあること。
- ⑥メンバー登録した会員から見ても、連盟へは5500円支払ったつもりになっていることもあり、その対価としてどのようなメリット、もしくは連盟活動が有るのかということを確認していますので、現実4400円しか収入源として受けられない連盟は苦しい立場になること。
- ⑦この意味で研究課題として、連盟実収入は4400円であることを明確にする意味では、連盟メンバー料金と加盟団体料金を分離することも含め、総合的に研究しなければならないこと。

同意を得た。

議題4) 平成15年度予算（補正案）

鈴木理事より資料に基づき、平成15年度予算（補正案）について提案があった。平成15年度当初予算に確定した助成事業を追加したもので、連盟の自主事業ならびに管理費については基本的に修正はしていない。組織変更に伴い、水域活性化委員会が廃止されたため、事業費支出の通信運搬費を予備費とした。また、オリンピック特別会計へ平成14年度期末繰入れた480万円を15年度に相殺することで、一般会計からオリンピック

特別会計への繰入金支出を 480 万円減額とした旨、説明があった。

外洋東関東の横田光夫評議員より、事業費・管理費の印刷製本費及び通信運搬費については、プロジェクターなどを使用した会議運営でコピー代・切手代を節約し、経費節減をしていただきたい旨、提案があった。

同意を得た。

平成 15 年度定期表彰

平成 15 年度 JSAF 定期表彰授与式があった。功労賞に、JSAF 理事として 16 年間任務された栗田栄一郎氏、JSAF 理事として 12 年間任務された藤沢誠一氏、日本テザー協会名誉会長の吉川圭二氏。優秀競技者賞に、第 14 回アジア大会 OP 級男子優勝の飯束潮吹氏、単独世界一周レース「アラウンドアローン 2002-2003」完走した白石鉦次郎氏が表彰された。

報告事項

- (1) 松田専務理事より、国際セーリング連盟加盟各国連盟では、皇室との関係も深いことより、当連盟として高円宮妃殿下を名誉総裁に推戴いたし連盟活動を行いたく、すでに宮家との内諾もいただいている。それに伴い、寄附行為の改正を今評議員会へ諮る予定だったが、監督官庁からの指導もあり、本年 9 月中旬頃に書面表決の臨時評議委員会を開催し、寄附行為改正の議決をいただきたい旨、提案があった。
- (2) 中山総務委員長より資料に基づき、メンバー登録の会費納入期限について、各加盟団体・特別加盟団体事務局のご協力をお願いしたい旨、発言があった。
- (3) 川北ルール委員長より資料に基づき、ルール委員会報告があった。RRS42 条の解釈の問題など、各加盟団体・特別加盟団体とのコミュニケーションを語りながら、本年度事業を展開していきたいとの発言があった。
- (4) 名方レース委員長より資料に基づき、レース委員会報告があった。
- (5) 斎藤指導者副委員長より、B 級コーチ指導員について説明があった。
- (6) 富田外洋特別委員長より資料に基づき、小型船舶操縦士免許・乗船経歴の証明についての規程について説明があった。小型船舶操縦士免許の更新について、JSAF ならびに JSAF 加盟団体及び特別加盟団体が主催・共同主催、もしくは後援するセーリング競技会および体験乗船に参加する JSAF メンバーの乗船経歴 30 日以上で更新講習を免除するものであり、その乗船経歴を証明するための規程である。乗船経歴証明書の発行には、連盟の規則に則り、加盟団体もしくは特別加盟団体に保存される記録をもとに JSAF 会長から発行される。主催団体にも義務負担が出てくるものの、会員メリットにつながる事であり、積極的に活用したいとの発言があった。ま

た、外洋艇登録に関するガイドラインの説明があった。

- (7) 本年度国体開催地の静岡県御前崎町増田教育長からご挨拶があった。
- (8) 昇常務理事より、米澤一顧問が長年にわたるヨットを中心としたスポーツ界への功績が認められ勲四等瑞宝章を受章された。これを記念して、平成15年7月11日(金)、赤坂プリンスホテルにおいて祝賀会を開催するとの報告があった。
- (9) 松田専務理事より、高体連の澁谷有人評議員から①ヨット人口減少に対する方針、②国体 SS 級の少年男女導入に伴う、国体委員会と高体連の関係、③レースオフィサー制度の義務付け、④全日本補助金廃止の意図等の質問がでているとの報告があった。
- (10) 松本顧問より、日本一周フラッグリレーキャンペーン 2003 の現状報告があった。本年5月3日に新潟を出港し、10月5日には夢の島で終了予定との発言があった。
- (11) 水谷普及委員長より、本年度日本財団助成事業の状況報告があった。
- (12) 上原医事科学委員長より、ドーピングに関する説明があった。ビデオ上映があった。

以上

森議長から他に意見・質問を求めたが、特段なく終了した。

本日の評議員会の議題は上記の通り議決承認されたので、議事録署名人は次に記名捺印する。

平成15年6月●日

議 長 森 信和

議事録署名人 武市 進作

議事録署名人 丹羽 徳子